

塩尻市中心市街地における道路空間活用社会実験「えんぱーくピクニック」検証結果

背景・目的

全国的に、居住人口の減少や高齢化の進行、空き店舗の増加、郊外型ロードサイド店舗の立地等により、中心市街地の活力が低下しつつあります。

こうした中、近年の活性化の取組として、多くの都市では、道路空間を車中心から「人中心」の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に活用することで、人々が集い、憩い、多様な活動を展開できる場を創出する取組が進められています。

本市においても、道路空間を活用した賑わいの創出について、「塩尻市大門地区市街地総合再生基本計画（令和7年度策定）」における将来像及び取組方針に位置付け、中心市街地の新たな空間づくりに向けて、官民一体となった取組を推進することとしています。

このような背景から、賑わい創出に取り組む民間事業者が道路空間を活用したイベント等を実施しやすい環境を整えるため、本市及び都市再生推進法人である株式会社しおじり街元気カンパニーが連携し、交通規制等に係る負担や手続上の課題を軽減する支援の有効性について検証するものです。

実施概要

- ◆実施主体：塩尻市、(株)しおじり街元気カンパニー（都市再生推進法人）
- ◆実施場所：県道塩尻停車場線のうち
大門八番町交差点から八十二長野銀行前交差点まで（市民交流センターえんぱーく前の約200m区間）
- ◆実施期間：令和7年5月～令和8年3月 計8回
- ◆実施内容：県道を歩行者天国化し、民間事業者による道路空間を活用したイベントを実施

R7年6月～R8年3月 塩尻大門マルシェ
(株) e-yo



R7年6月21日 アーバンスポーツ
(一社) アーバンスポーツ信州



R7年8月9日 しおじり感謝還元祭
(株) YOUMEX



R7年11月15日 まちフェスと同時開催



◆塩尻市大門地区市街地総合再生基本計画 将来像

新たな居住者と共に楽しめるまち



多様な世代が楽しめる店舗が立地したり、空地（あきち）等を利用したイベントが行われることで、若い世代や二地域居住等による居住者が増え、大門商店街周辺で時間を過ごす家族連れが多く見られます。

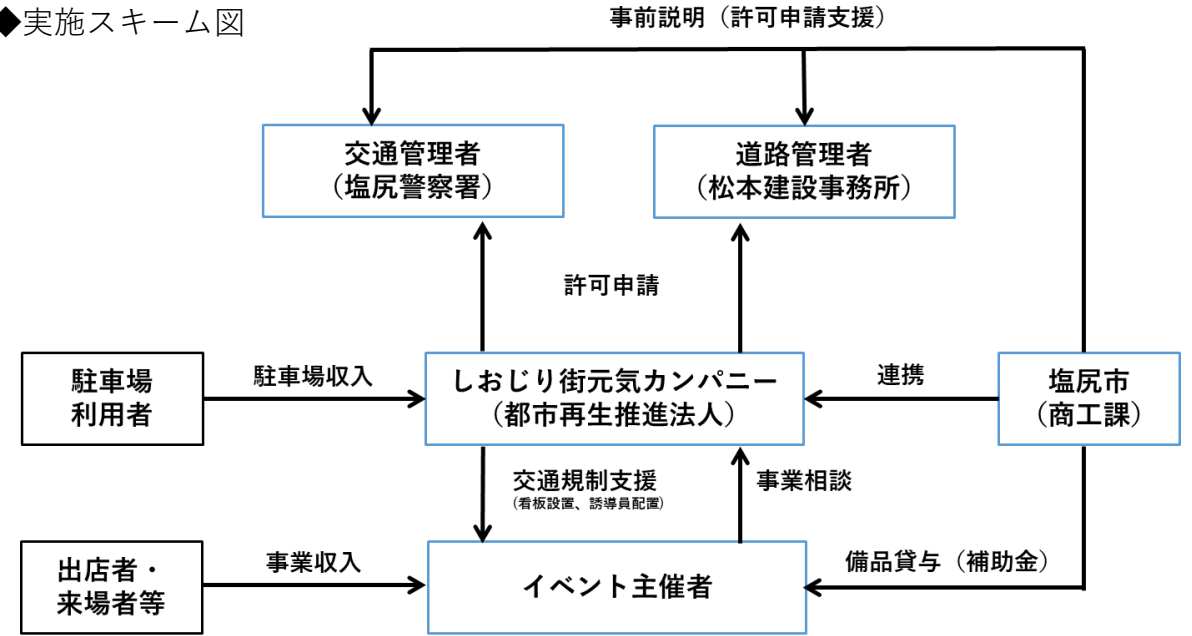
塩尻市中心市街地における道路空間活用社会実験「えんぱーくピクニック」検証結果

実施概要

◆社会実験実施区間



◆実施スキーム図



検証項目

◆社会実験を通して検証したい内容

- **支援の有効性**：道路空間活用における民間への支援が有効に機能するか
- **賑わいの創出**：支援したイベントにより、人の集まる場を作ることができるか
- **街の活性化**：イベントが地域経済や街の魅力向上に貢献するか
- **実施体制の検討**：適切な実施体制の構築をできるか
- **開催要件の検討**：実施に要する経費、人員、周辺への影響はどの程度か



◆検証項目

- エリアマネジメント活動の場としての機能
- イベント開催による波及効果
- 関係各所との連携・支援体制の構築
- 周辺住民の反応、合意形成
- 周辺道路交通への影響
- 継続的な開催に向けた必要経費

塩尻市中心市街地における道路空間活用社会実験「えんぱーくピクニック」検証結果

実施の様子



設置したテーブル・椅子で休憩する来場者



沿線の花壇や日陰に座る来場者



地域のダンスクラブの発表



青空図書館での読み聞かせ



市内高校の部活動発表



地元によって設置されたストリートピアノ



人工芝の上で遊ぶ子ども



市内高校生の出店



沿線店舗の出店

塩尻市中心市街地における道路空間活用社会実験「えんぱーくピクニック」検証結果

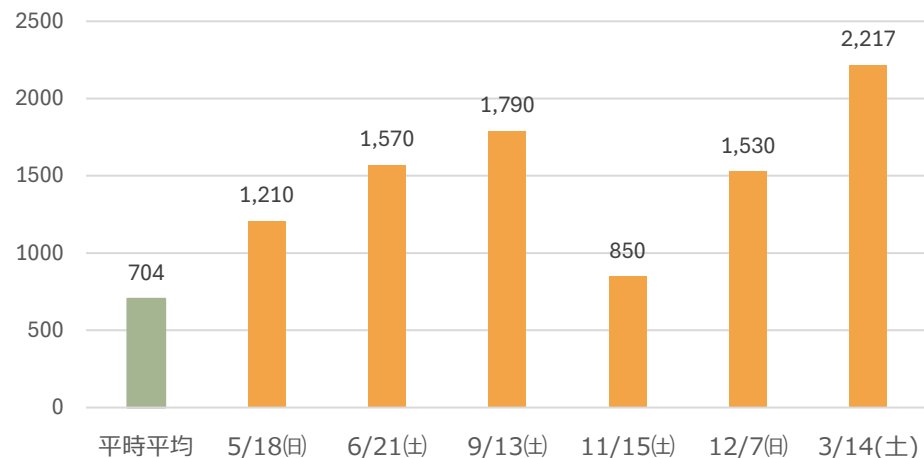
各種調査結果

◆来場者数・えんぱーく利用者・大門駐車場利用台数調査

- 来場者数は各回1,500～2000人程度（グラフ①）
- 会場周辺のえんぱーくでは、通常時の休日と比較して1,000人程度（通常時比+75%）の利用者が増加した（グラフ②）
- 会場周辺の大門駐車場では、通常時の休日と比較して300～500台程度（平常時比+40%）の駐車台数が増加した（グラフ③）

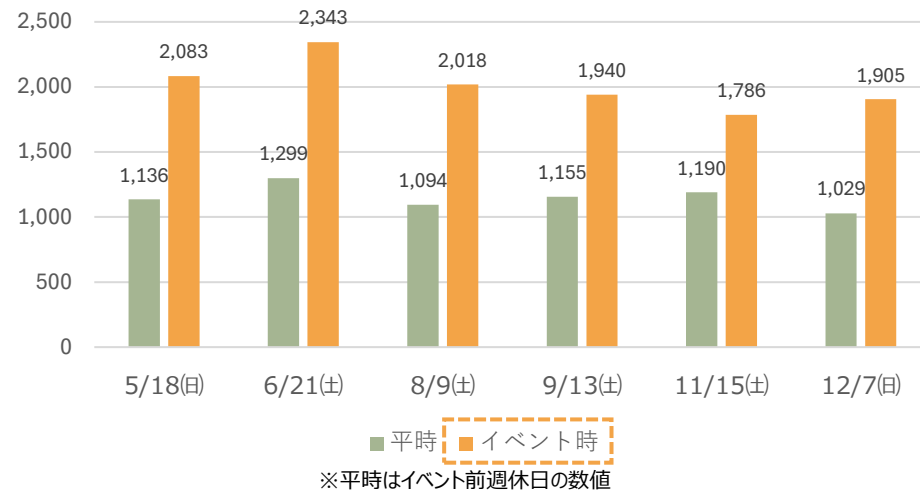
➡道路空間を活用したイベントの開催により、中心市街地への来訪者数が平時よりも増加し、集客を生んでいる

グラフ①
来場者数

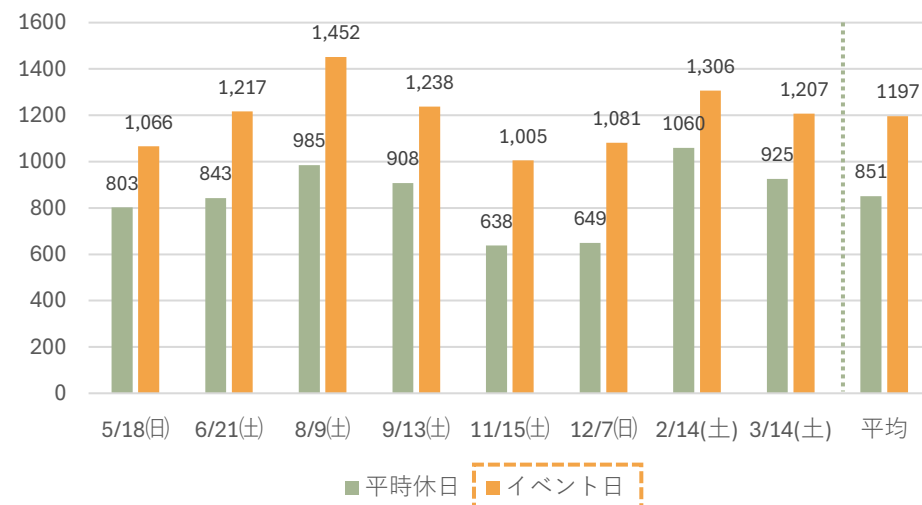


※来訪者は道路上の人数を目視でカウント（滞在時間は30分と仮定）
※平時平均は交通量調査のデータによる

グラフ②
えんぱーく利用者数



グラフ③
大門駐車場利用台数



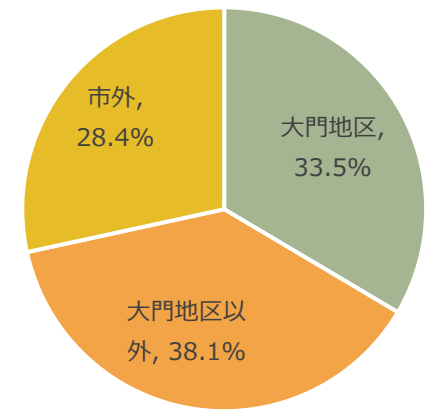
塩尻市中心市街地における道路空間活用社会実験「えんぱーくピクニック」検証結果

各種調査結果 来場者アンケート

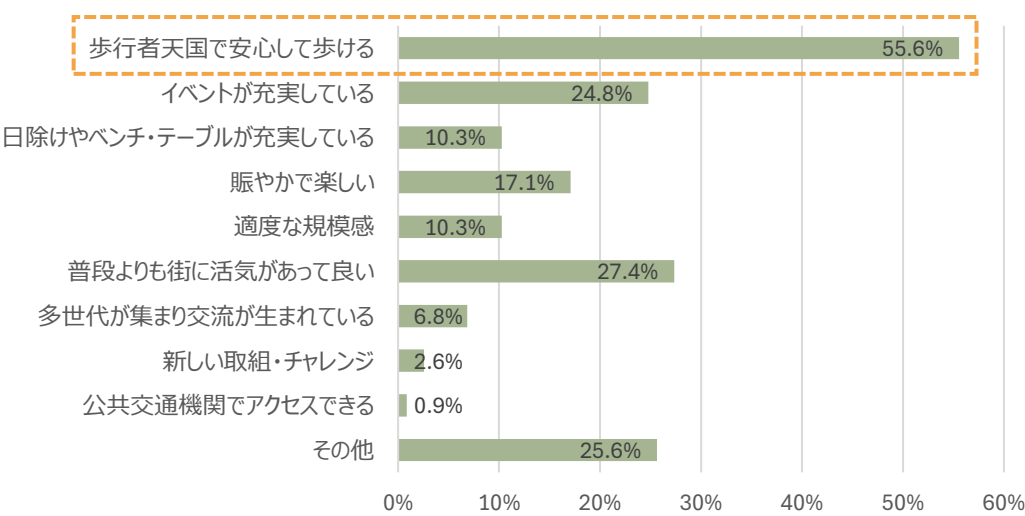
◆居住地・イベントへの満足度調査

- 来場者は大門地区・大門地区以外・市外それぞれ3割程度の割合となっている（グラフ④）
- 約80%が「満足」と回答（グラフ⑤）
- 満足な点として「歩行者天国で安心して歩ける」と回答する人が半数以上（グラフ⑥）
- 日除けやベンチなどの休憩施設の充実を求める割合が高い（グラフ⑦・⑧）

グラフ④
居住地 N=176

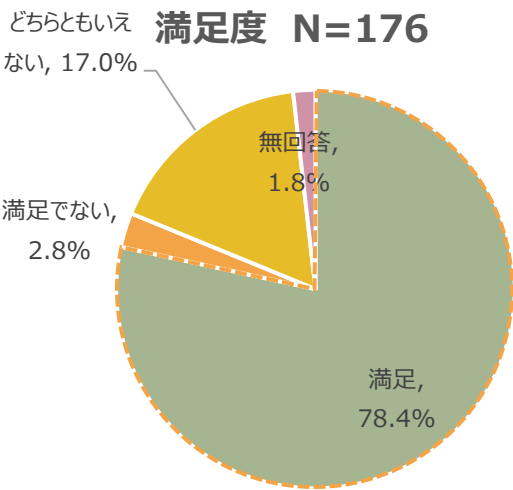


グラフ⑥
満足な点 N=117【複数選択可】

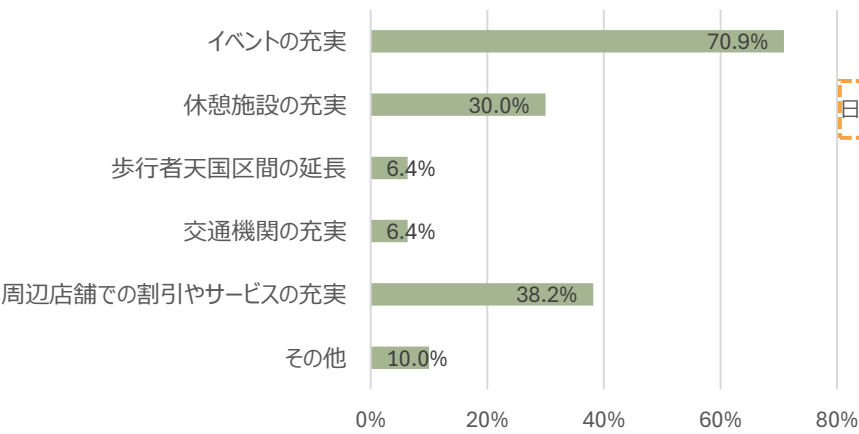


➡歩行者天国でのイベント開催への評価は高い

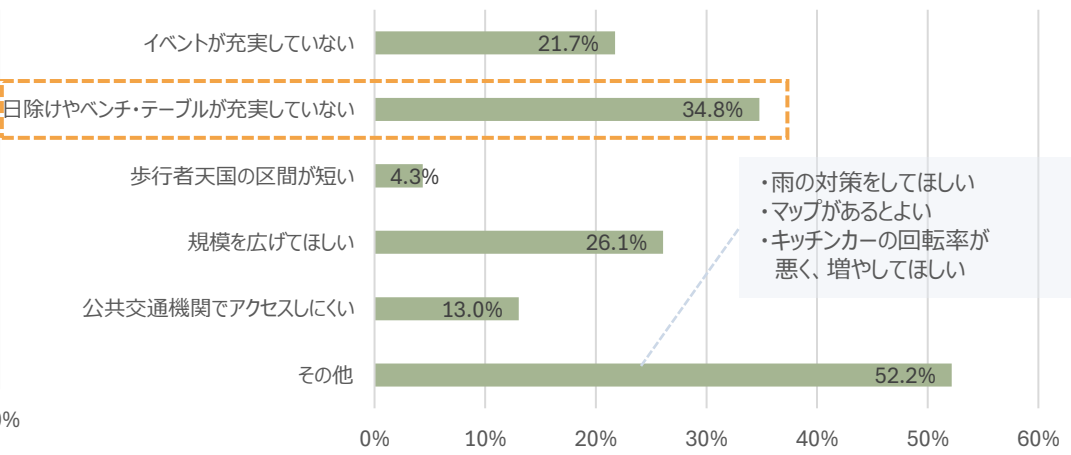
グラフ⑤
満足度 N=176



グラフ⑦
イベントに求める点 N=106【複数選択可】



グラフ⑧
満足でない点 N=23【複数選択可】



・雨の対策をしてほしい
・マップがあるとよい
・キッチンカーの回転率が悪く、増やしてほしい

塩尻市中心市街地における道路空間活用社会実験「えんぱーくピクニック」検証結果

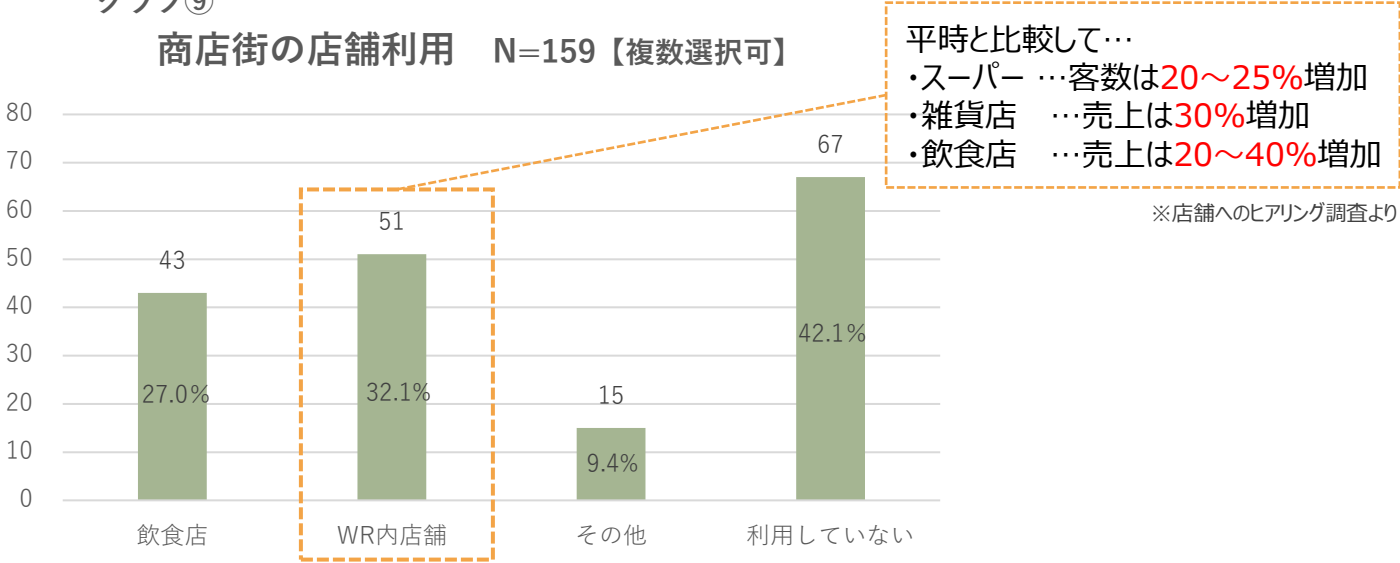
各種調査結果 来場者アンケート

◆周辺への波及効果調査

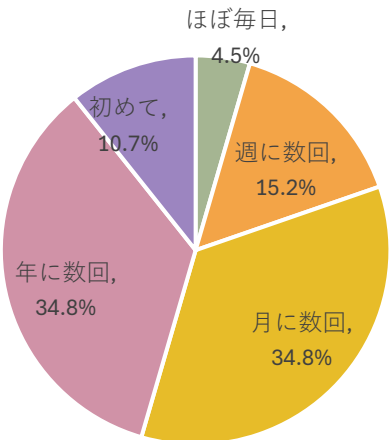
- ・ イベント来場と併せて周辺店舗を利用したと回答した人が58%程度
また、周辺店舗にて、イベント時に客数や売上の増加が確認できる
(グラフ⑨)
- ・ 普段大門商店街をあまり利用しない人（月に数回、初めて）もイベントを契機に周辺店舗を利用している（グラフ⑩）

⇒イベントによる周辺への波及効果は一定数ある

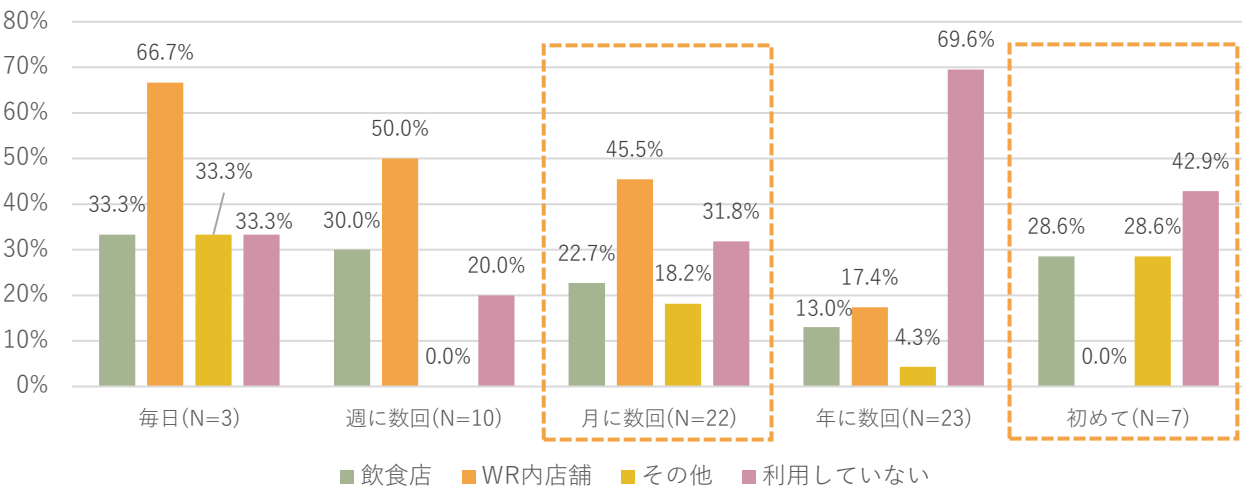
グラフ⑨
商店街の店舗利用 N=159【複数選択可】



グラフ⑩
普段の大門商店街来訪頻度 N=66



グラフ⑪
来訪頻度×周辺店舗利用【複数選択可】

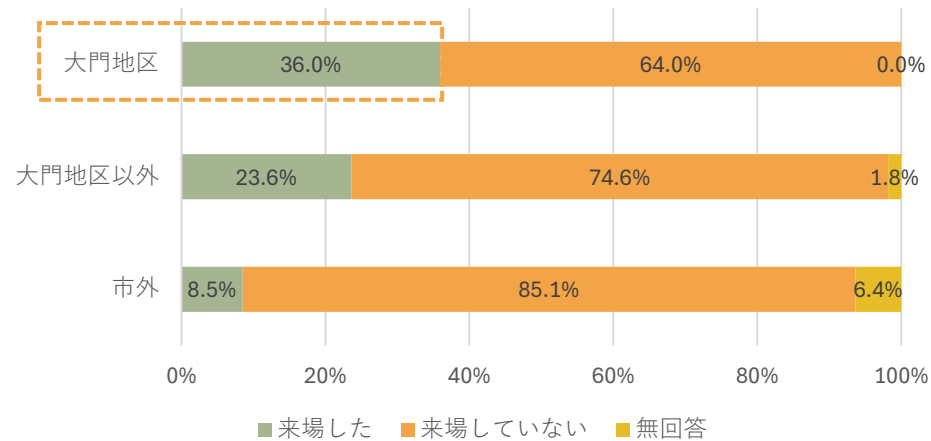


塩尻市中心市街地における道路空間活用社会実験「えんぱーくピクニック」検証結果

各種調査結果 来場者アンケート

グラフ⑫

居住地×再訪割合



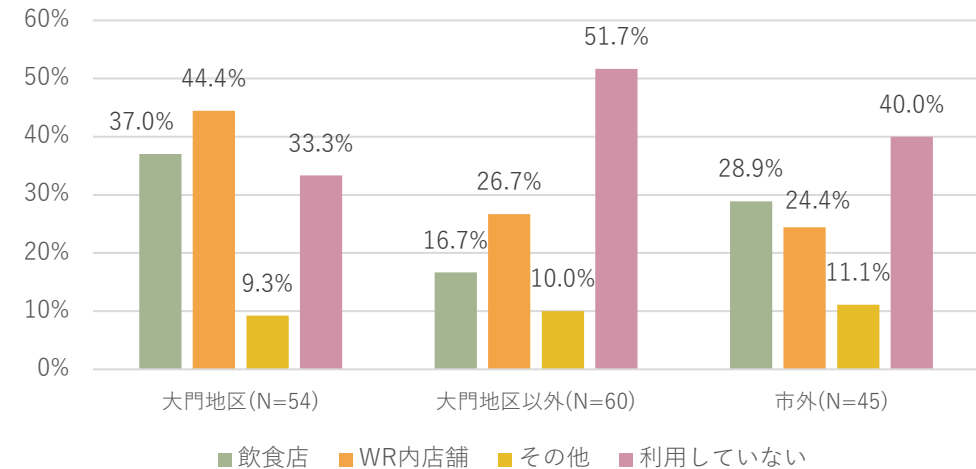
◆居住地と再訪割合の相関

- ・再訪した割合が最も高いのは大門地区で、次いで大門地区以外が多い。
- ・市外の人々の再訪割合は低い

➡大門地区居住者の再訪確率は高く、地域に浸透している

グラフ⑬

居住地×周辺店舗利用【複数選択可】



◆居住地と周辺店舗利用割合の相関

- ・大門地区及び市外から来場した人は半数以上が周辺店舗を利用している。
- ・大門地区以外から来場した人の半数以上は、イベントのみを体験して周辺へは足を運んでいない。

➡市外居住者もイベントを契機に周辺店舗を訪れており、商店街に一定程度の好影響をもたらしている

検証結果

◆エリアマネジメント活動の場としての機能

- ・道路空間活用のハードルを下げた結果、複数の事業者や団体の活用が生まれ、賑わい創出の機会となった。
- ・道路空間を活用したことで、塩尻大門マルシェの開催規模が拡大した。
- ・民間事業者においても道路空間を活用してイベント等を開催したいという需要があることが確認できた。
- ・道路使用にあたっては、一定の公共性が求められるため、民間事業者の開催要件に一定の制約がある。

◆イベント開催による波及効果

- ・アンケート結果から、周辺店舗の来場者が通常時よりも50%～85%増加するなど、賑わいの創出に寄与していた。
- ・アンケート結果から、半数以上のイベント来場者の周辺店舗利用が確認された。また周辺店舗の売上の増加などの影響がみられるなど、イベント開催による波及効果があることが確認できた。
- ・アンケート結果から、普段中心市街地の利用頻度が少ない層や市外からの来場者の新規来訪を促す機会となっており、街の活性化へ寄与していたことが確認された。
- ・一方で、通常時の客層がイベントの開催により来店を控えることで、当日の客単価が下がるという意見もあった。

◆関係各所との連携、支援体制の構築

- ・道路規制申請について、市が申請支援を行うことで円滑に協議を進める体制を構築した。
- ・市、(株)おじり街元気カンパニー及びイベント主催者の実施スキームを確立した。

◆周辺住民・店舗の反応、合意形成

- ・地域活性化に向けた一連の取組について、沿線住民や周辺店舗から一定の理解・協力を得られた。
- ・実施区間周辺の店舗から、歩行者天国を伴うイベントにより、一時的ではあるものの賑わいが創出されていることを評価する声も寄せられた。

◆道路交通への影響

- ・大門八番町交差点周辺間に混雑が発生するが、許容できる範囲であった。
- ・警察には「なぜ通れないのか」などの意見が数件寄せられた。
- ・公共バスのバス停位置の変更に伴い、乗り遅れや「臨時バス停が遠い、わかりにくい」などの意見があり、臨時バス停の場所を変更した。

◆必要経費の把握

- ・道路通行規制に係る費用は交通誘導員費、保険料、申請手数料等であることを確認した。
- ・それらの費用はイベント開催による大門駐車場の利用者増加により、一定の増収が見込めるため、継続的な運営が可能であることを確認した。

検証結果

◆検証結果まとめ

本社会実験の検証により、道路空間活用における本市及び(株)しおじり街元気カンパニーによる支援の有効性、民間事業者による道路上でのイベントの開催需要、並びに民間主体のイベントによる賑わいの創出や周辺店舗への波及効果が確認されました。

また、「えんぱーくピクニック」の継続的な運営に向けて、各主体の役割分担を明確化した実施スキームの構築に加え、道路通行規制に係る必要経費など、運営上の要件についても把握することができました。

以上のことから、「えんぱーくピクニック」は継続的な運営が可能であると判断されるため、本社会実験による検証は終了し、今後も引き続き本市及び(株)しおじり街元気カンパニーにて道路空間活用の支援を行ってまいります。

また、多様な民間主体の活動を促進するため、当該支援を広く募集する仕組みや、実施区間の延長、周辺店舗等との連携強化など、道路空間活用の更なる可能性について検討してまいります。